

編集後記

どの学校もそうであろうが、創立の節目となる年、年史に携わる部署は俄かに慌ただしくなる。平成二一年度は本学が開校して一三〇年という節目であり、事務室には常に切羽詰まった空気が漂っていた。

九月一六日の大学創立記念日に合わせて『専修大学の歴史』を刊行、展示は大学創立記念日から「創立者同時代展」を神田、生田校舎、サテライトキャンパス 東京芸術劇場と巡回展を行い、終了後、息つく暇もなく、創立者の一人である「駒井重格の軌跡」展を駒井の出身地である桑名市において、桑名市博物館、一橋大学との共催で開催した。その間他の部署からの資料提供依頼などもあり、まさに綱渡りの一年であったといえる。私自身は直接的に関わる機会は少なかったが、実際にそれらの業務を担当した饒に は頭の下がる思いである。

一方で、節目の年というのは自校史に目を向けてもらう絶好の機会である。普段はあまり関心を示さない学生や教職員も展示やホームページ、また学内広報紙などに大学の歴史が頻繁に取り上げられることによって、興味や関心が高まる。また、卒業生や一般の方々にも本学 歴史を紹介する機会が広がる年でもある。

今年 年の締め括りとして『専修大学史紀要 第二巻』が刊行される。願わくば、自校史への関心が節目の年だけで途切れることのないよう発信を続けていきたいと思います。

(大学史資料課長 岩崎俊彦)